

19 世紀における『源氏物語』住宅考証書の成立と展開

— 『源氏物語』の考証研究にみる寝殿造理解の研究 (1) —

日本建築学会計画系論文集/ No. 651/ pp. 1209-1217/ 2010 年 5 月

正会員 赤 澤 真 理 君

本研究は、近世における寝殿造の理解とその形成過程を明らかにすることを目的に、19 世紀に制作された一連の『源氏物語』住宅考証書の内容を詳細に比較・検討したものである。分析対象は 19 世紀の国文学者・松岡行義の編纂した『源語図抄』、『源氏類聚抄』で、これらの注釈がそれ以前の注釈書よりも原典重視の姿勢であり、図版に『大内裏図考証』や『院宮及私第図』といった故実学の成果を引用するなど、住宅考証書としてはそれ以前の近世の注釈書よりもはるかに情報量が多いこと、そしてその影響下に『源語図集』、『源氏物語考証図』などの画像集や注釈書が作成されたことを明らかにしている。文献・絵画資料を扱った作業は方法も明確で信頼でき、寝殿造研究にとって意義ある研究と評価できる。